

発刊にあたって

山梨県立大学学長 鶴見尚弘

平成 17 (2005) 年 4 月に開学した山梨県立大学では、創立期の繁忙のさ中に初年度より紀要が学部ごとに発刊の運びとなったが、それは本学教員の研究に対する熱意のあらわれであり、慶賀すべきことである。

本学は 21 世紀の新しい時代の潮流に対応し、山梨県立女子短期大学を改組した国際政策・人間福祉の 2 学部、山梨県立看護大学を看護学部とし、同大学院看護学研究科をも統合して発足したものである。

本学の目指す目標は、グローバルな知を創造・継承すると共に、その知にもとづき、地域からより広い社会で活躍できる実践的人材を養成することであり、加えて地域への貢献である。

大学の主たる存在の意義が研究と教育にあることは論を俟たないが、大学での教育は研究の成果に裏打ちされたものでなくてはならないし、大学が果たしうる社会貢献とは研究を通じて作り出した「学のシーズ」としての社会貢献であろう。時代が変化しても大学にとって研究の重要性は変わらないのである。

いうまでもないことであるが、研究の成果は発表されることによってはじめてその価値を世に問うことになる。紀要発刊を機に、新しい時代にふさわしい創造的な研究意欲が一層湧き起こり、巻を追うごとに斯界に重きをなすに至ることを願って止まない。

なお『山梨県立女子短期大学紀要』は昭和 41 (1966) 年度に創刊されて以来、平成 17 (2005) 年 3 月まで 38 号をもって発行を停止したが、38 年間にわたる研究の積み重ねには大きなものがある。今後それらの成果は総合大学としての多様性を加味しながら『山梨国際研究 山梨県立大学国際政策学部紀要』・『山梨県立大学人間福祉学部紀要』として引き継がれることとなった。

2006 年 3 月